伊豆の国市郷土資料館

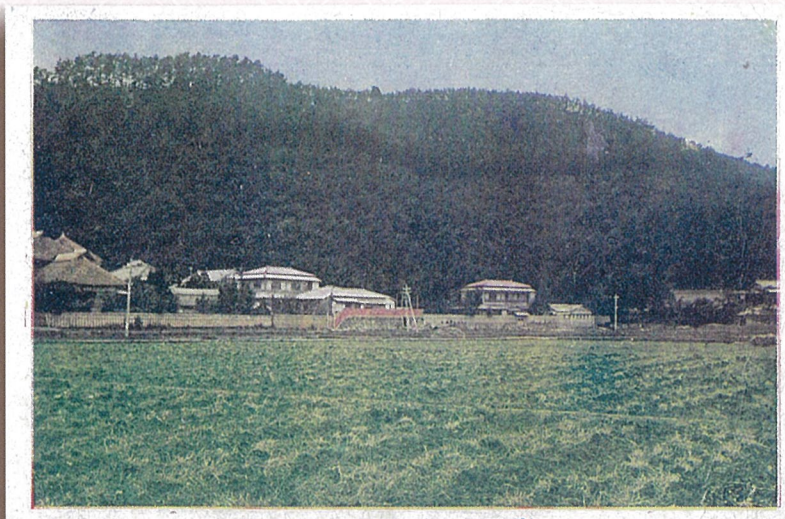
Vol.2

資料館だより

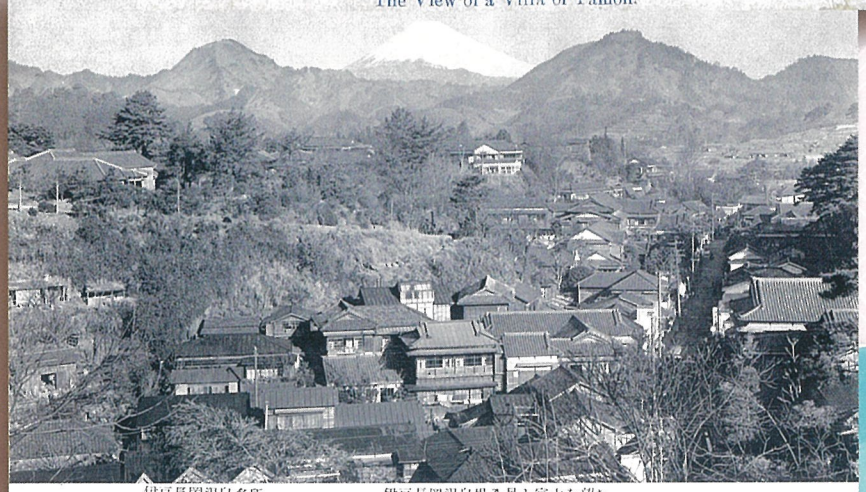
目次

テーマ展示より① … (2)
テーマ展示より② … (3)
2020年度スケジュール … (4)
コラム・インフォメーション … (4)

①

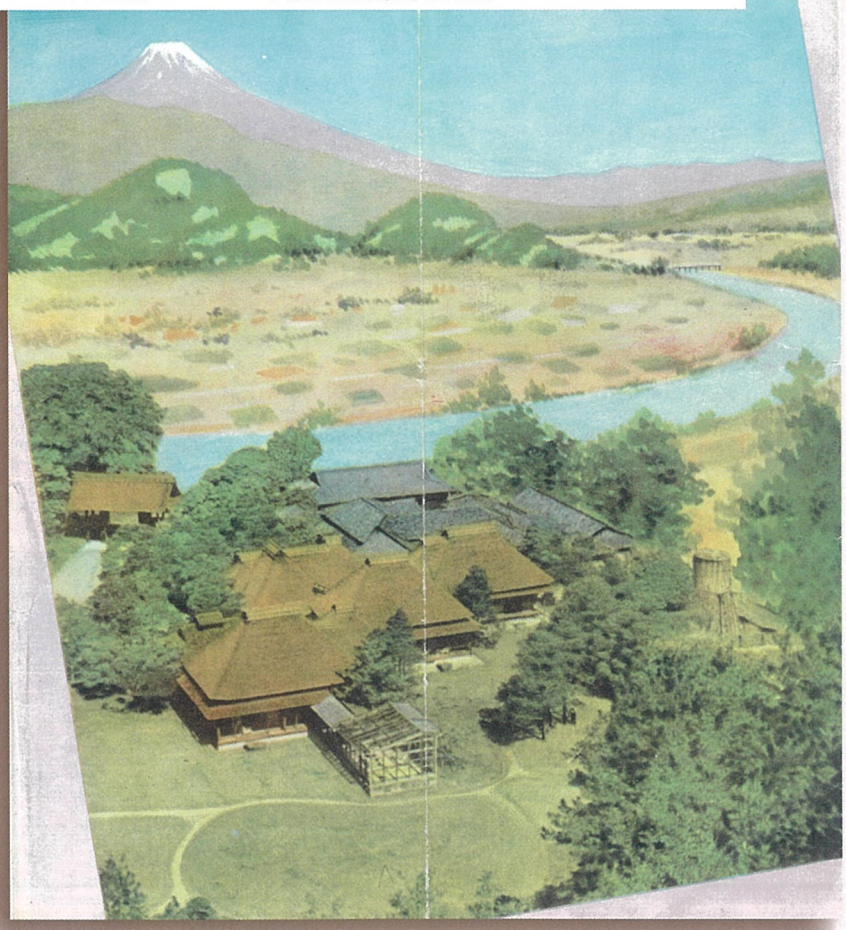


②



伊豆長岡温泉名所　　伊豆長岡温泉場全景と富士を望む

③



左の絵はがき（①・②）やパンフレット（③）は、テーマ展示「別荘地 いずのくに ～近代リゾート開発小史～」（期間 二〇一九年四月二日～五月三十一日）で展示した資料です。

①明治・大正期の長岡温泉多門屋敷別荘地。最明寺の北側、現在の長岡南小学校の西側周辺。犬養毅・鈴木梅太郎・高田早苗らの別荘がありました。

②大正～昭和初期の長岡温泉場の旅館街。

③守山山麓（韮山温泉）の別荘建物を利用して戦後スタートしたホテル水宝閣。現在は、史跡北条氏邸跡（円成寺跡）の一部です。

テーマ展示より① 別荘地いずの国 伊豆の国のリゾート王？ 三代目 大村和吉郎

別荘地化する近代の伊豆の国市内

伊豆の国市内に別荘地が急増したのは近代以降のことです。長岡地区では一九一〇年代以降、有城・猿渡・多門屋敷・田端で温泉が掘削されます。旅館がない多門屋敷などでは、温泉による利益を得るため、地主らが別荘用に建物を建設。犬養毅など政財界や教育関係の著名人が次々と別荘を所有し、別荘地として急成長をとげます。これらの別荘は長岡温泉のPRや観光地化にもつながりました。

韮山地区では、大正デモクラシーを牽引した吉野作造が、一九二一年大仙山麓で学者村・韮山別荘団の造営計画に着手。吉野自身も土浦亀城※1が手掛けた別荘を同地に建てました。さらに、一九二二年に寺家区で温泉の試掘が始まると、守山山麓の土地が京浜地方の上流階級華族などに別荘地などとして分譲されました。

戦前の韮山別荘団（現・大仙区）。右奥が高井治兵衛の別荘。

このような名士による別荘建設ラッシュは一九三〇年の北伊豆地震後、終息に向かい、旅館宿泊が中心の時代となっていきます。一方、一九三三年に吉野の死去にともない大仙山麓の別荘地造成は中断しますが、一九四〇年には高井治兵衛が韮山温泉土地株式会社を設立し大仙山麓の別荘地を引き継ぎます。この地区には戦時中、京浜地方からの疎開者も増加しました。

伊豆のリゾート開発を推進した大村和吉郎

三代目大村和吉郎（栞）は、静岡製茶製函株式会社社長、静岡瓦斯株式会社取締役、滝川製紙株式会社社長、天竜水電株式会社顧問などを兼任した実業家です。一九一二年頃には弟らと大村組鉱業事務所を設け、北海道産辰砂の採掘を成功する実績もあげています。父親の二代目和吉郎（英春）は、多田村（現・韮山多田）出身で、中郷村（現・三島市）大場の大富豪・大村家の娘婿に迎えられました。英春は、大場銀行を創設し、衆議院議員などを歴任します。息子の栞は大場で生まれ、早稲田大学を卒業。欧米で見聞を広げ、実業家として成功をおさめました。一九三九年、六十三歳で死去。

栞は、吉野作造に畑毛温泉へ別荘を建設することを勧め、大仙山麓の土地二万坪の買収を仲介します。寺家・古奈地区にも別荘地を計画し、韮山別荘団（後に守山別荘団）名義で狩野川護岸工事を開始すると、守山山麓を板倉勝憲ら京浜地方の名士に分譲します。また、板倉や長岡温泉有志らが開設した長岡競馬場を買収し、大改装を経て公設競馬場指定を受けました。一九二八年には、守山別荘団の名で伊豆長岡駅前に遊園地を造成。一九三〇年に中之島水族館（沼津市内浦、伊豆・三津シーパラダイスの前身）をつくったのも栞です。

個別の利益追求ではなく、温泉や別荘の利用客を全体的に取り込む総合開発を目指した栞は、伊豆地域における近代リゾート開発のキー・パーソンと言えるでしょう。

※1 吉野の娘の夫で、アメリカのフランク・ロイド・ライト（帝国ホテル本館などを設計）に学んだ建築家。吉野の別荘は、渡米前の東京帝国大学建築学科卒業直後に設計しましたが、ライトの意匠に影響を受けたデザインでした。

テーマ展示より② 伊豆国文学案内1 家族と大仁を愛した 剛直の作家 橋本 英吉

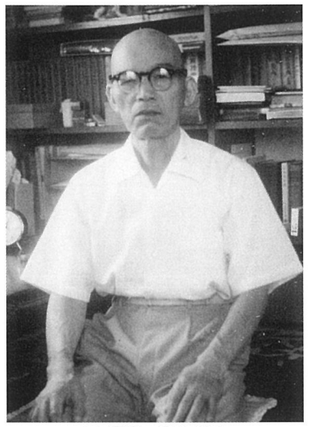
橋本英吉、大仁に暮らす

「疎開したまま、伊豆大仁に住みついて二十年になる。僕は六十七歳。九州から東京に出たのが二十歳すぎだから、人生の三分の一をいつのまにかここで暮したことになる。九州人でも東京人でもなく、伊豆人と言えそうである」

自身の随筆「伊豆と富士山」※2でこのように述べた作家・橋本英吉は、一九七八年四月二〇日に旧大仁町の自宅で死去しました。享年七十九歳。

彼が暮らした守木周辺では、この「剛直」と評される文士のことを今も記憶している人が少なくありません。大仁小学校の児童に演劇の台本を書いてあげたり、公民館で勉強を教えてあげたりしていたことを覚えている方もいます。また、よく釣りに出かけていたと言う人もいます。

橋本英吉は、一八九八年福岡県築上郡東吉富村（現・吉富町）に、周右衛門・リン夫妻の次男として誕生します。本名は亀吉。高等小学校卒業後、坑夫や印刷工を経て、一九二四年に横光利一・川端康成らと知り合い、実際に炭坑を経験したプロレタリア作家として処女作「炭脈の昼」※3で文壇にデビューします。


70歳頃の橋本英吉

一九二八年に治安維持法が改正されると社会運動への取り締まりが厳しさを増し、転向を余儀なくされ、妻きねの実家がある田方郡函南村（現・函南町）に一時は居を移しますが、再び上京。自然と人間との対峙や歴史をテーマにした作品を書き続けます。「欅の芽立」※4（三六年）で第五回文学界賞、『東方の種族』※5（四四年）で第六回有馬賞を受賞。戦後の一九四五年、旧大仁町守木に移り住みました。四八年に鎌倉文庫から刊行された『富士山頂』は、新東宝で映画化されます。

英吉はプロレタリア作家、農民作家として評価されることが多い文士ですが、四十七歳から亡くなる七十九歳まで、人生の四割以上を暮らした伊豆での活動はあまり注目されてきませんでした。英吉がやってきた時代の大仁は、戦後の復興と工業の発展、観光地化などが進んだ活気ある時代。同時に、山村の風情も残っていました。狩野川台風を経験し、この災害をモティーフに短編小説「死者展覧」を発表。さらに、長岡の俳人・萩原麦草との交流もあり、まさに「伊豆人」の三十年間でした。

その大仁での生活は、英吉にどのような影響を与えたのでしょうか。ぜひ当資料館で英吉の作品に触れ、みなさんによる新しい橋本英吉の人物像をつくってください。

橋本英吉の小説

※2「政界往来」昭和四十一年二月号（政界往来社）初出 ※3「文藝時代」三巻十一号（金星堂）初出 ※4「文學界」三巻五号（文學界社）初出 ※5 翼賛出版協会刊行 ※6「民主文学」八十六号（日本民主主義文学会）掲載

二〇二〇年度 スケジュール

◎テーマ展示◎

Ⅰ おめでとう！火起こし隊
　＆資料館の活動 紹介パネル展
　三月三十一日～未定

Ⅱ（仮）高校生研究発表
　七月七日～八月三十日

Ⅲ 伊豆国文学案内２
　～読書の秋、文学さんぽに
　出かけませんか？～
　九月八日～十一月二十九日

Ⅳ ばぁばのおせち、じぃじのお雑煮
　～近現代家庭料理と郷土料理～
　十二月八日～二月二十八日

※二〇二〇年度の収蔵庫移転作業期間、展示室が臨時休館となります。この休館期間に合わせ、展示期間も変更になる場合があります。ご迷惑をおかけしますが、あらかじめご了承ください。休館期間などの詳細は、伊豆の国市ホーム・ページ上にてお知らせします。

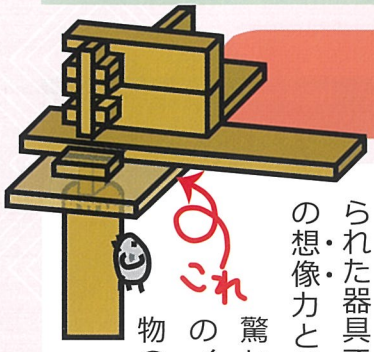
現場スタッフのおススメ！

資料館の展示室では、山木遺跡（韮山山木周辺）から発掘された弥生土器を展示しています。その土器とともに、この遺跡からは大量の木製品が出土しました。中でも私が一番「！！」と感じたモノは、一九五〇年の第一次発掘調査で、倒れた柱とともに見つかった「ねずみ返し」です。普段は専用の収蔵庫で保管しています。

発掘された時のようす

ねずみ返しは、穀物や食料をネズミの害から守るため、高床の建物の柱に板を二枚つけて、中にネズミが侵入しないように作られた器具です。弥生時代の人々の想像力と創造力には、本当に驚かされます。展示室のイラストを見て、建物のどの部分かを確認してくださいね！

（受付事務）

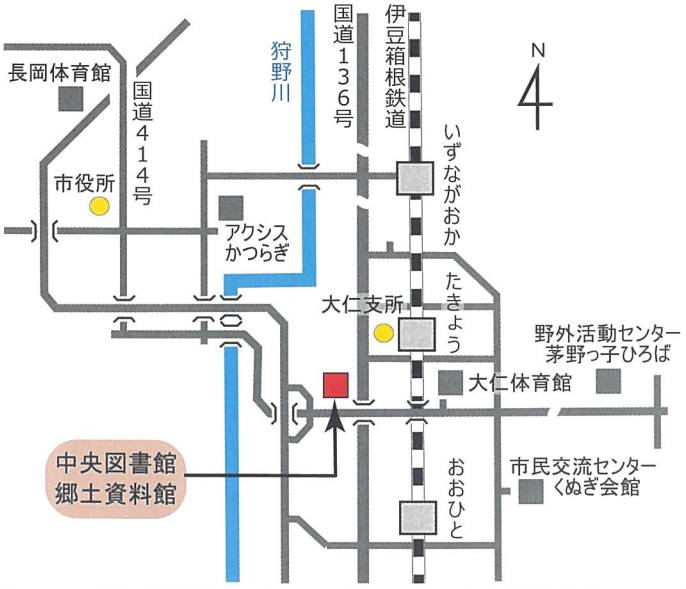


インフォメーション

施設案内

開館時間　午前九時～午後四時三〇分
休館日　月曜日　毎月最後の金曜日
　年末年始（十二月二十八日～一月三日）
　六月最終週の館内整理期間
　（図書館休館日に準じる）
料金　無料
所在地　静岡県伊豆の国市田京一六七・七
　（伊豆の国市立中央図書館二階）
問合せ　〇五五八・七六・五六七八

周辺地図



伊豆の国市郷土資料館　資料館だより　vol.2
編集発行：伊豆の国市郷土資料館　令和二年三月二十七日
印刷：いさぶや印刷工業株式会社